

地域再生計画（地方創生道整備交付金）中間評価調査

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県、阿南町	地域再生計画名	阿南町「きめ細やかな安全性、快適性を高めるまちづくり再生計画」
計画期間	平成27年～平成31年	評価責任者	阿南町役場 総務課 企画財政係 主事 金田 大輔		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価		
		基準年度	年度	中間実績	基準年度	年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	交流人口の増加	311,000人	H26	326,550人	H29	295,100人	342,000人	H31	×	評価指標の基準としている当町の観光主要施設（道の駅信州新野千石平、阿南温泉かじかの湯）の機能やサービスの向上を図ることで、本計画の道路整備に合わせて相乗効果を発揮させる必要がある。
	指標2	年間間伐実施面積の増	71.26ha	H26	74.63ha	H29	161.10ha	78.00ha	H31	○	目標値を上回る成果が出たため、今後も年間間伐面積の増加に努めたい。
	指標3	法面危険箇所の減少（計画3路線のうち）	4箇所	H26	0箇所	H29	1箇所	0箇所	H31	△	目標値には届かなかったが、法面危険箇所は年々減少している。
	指標4	主要道路災害時の迂回路として路面整備されていない路線	27路線	H26	21路線	H29	23路線	17路線	H31	△	目標値には届かなかったが、主要道路災害時の迂回路としての路面整備されていない路線年々減少している。
	指標5	交通事故の減少	96件	H26	91件	H29	97件	86件	H31	△	交通事故の発生件数は増加してしまっしたが、整備した路線での交通事故は無かった。
	指標6	（一社）信州あなんトータルマーケティング出荷販売額の増	44,062,000円	H26	46,265,100円	H29	44,255,000円	48,468,200円	H31	△	平成29年度に地方創生拠点整備交付金等を活用して（一社）信州あなんトータルマーケティングの事務所や集出荷場、精米所等の拠点を整備した。今後は新たな拠点を有効活用し、目標値の達成に尽力したい。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	農家民泊延宿泊人数	713人	H27	743	H29	1,093人	788人	H32	—	（一社）信州あなんトータルマーケティングが中心となり農家民泊の受入れを行っているが、目標値を上回る成果を出すことができた。
	指標2										
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度(H29)	最終実績見込み						
特別措置を適用して行う事業	町道整備事業（整備延長）		5.86km	3.07km	5.86km	全国的に要望箇所は増加傾向にあり、要望額の満額確保は厳しい状況になると考えている。なるべく低コストにて大きな事業量を得ようと努力はしているが、事業進捗に遅れが生じている。					
	林道整備事業（整備延長）		5.06km	2.10km	5.06km	全国的に要望箇所は増加傾向にあり、要望額の満額確保は厳しい状況になると考えている。なるべく低コストにて大きな事業量を得ようと努力はしているが、事業進捗に遅れが生じている。					
その他の事業	営農支援事業		大豆生産者への出荷補助による荒地の減少、パイプハウスによる農作物の出荷量の拡大を目的としたパイプハウス整備補助事業を実施。			地域の主要産業である農業分野において、担い手不足は深刻な問題となっており、施設整備等により生産性の向上に寄与し					
	振興組織運営事業		産家の再生や外貨の獲得による地域住民の収入の増加を図り、暮らしを豊かにすることを目的として、農林水産業の生産拡大に関する事業や特産品開発に関する事業まで、幅広く行い、農林商工業の振興を目的として設置された（一社）信州あなんトータルマーケティングへの活動事業費を補助。			（一社）信州あなんトータルマーケティングは地域の産業の拠点として、農家民泊や農林産物の販路の確保、ふるさと納税制度の返礼品の対応等、農林商工業の振興に寄与している。平成29年度に地方創生拠点整備交付金を活用し新たな拠点整備が完了したため、新たな拠点を有効活用していくなかで、更なる産業の振興を図りたい。					
	町内景観整備事業		通行の支障となる木の除去や良好な景観を維持するための立木伐採事業を行う。			道路沿線の支障木の除去により、道路の見通しの改善や、冬季の日照環境の確保による凍結対策等、道路の安全性の向上に寄与している。					
	みんなで支える里山整備事業		優良な木材生産のために間伐事業の推進を図る。			本計画の目標値の更なる推進のために、道路整備との相乗効果を促進している。					
	地元施工援助事業		町道、林道、農道へ生コンや碎石、作業における重機の借上げ料を補助。			地元住民の共同の町づくりにより、整備計画路線以外の路線の小規模な修繕が行われ、道路の安全性の向上に寄与している。					
計画外で独自に実施した事業											
④評価方法	産官学労金の外部有識者や、学校保護者等で構成される総合戦略検証会議において、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。										
⑤中間評価の公表方法	阿南町のホームページに掲載予定。										
⑥計画全体の総合評価	中間評価時点ではあるが、本地域再生計画立案時よりは改善した指標があるため、整備効果は表れていると考えている。地方創生道整備交付金を活用し町道整備と林道整備を一体的に実施しているが、山間部である当町は全国的な認知度も高くないため、すぐに大幅な事業効果を得ることまでは至らない見込みである。										
⑦今後の方針等	全国的に要望箇所は増加傾向にあり、要望額の満額確保は厳しい状況になると考えている。なるべく低コストにて大きな事業量を得ようと努力はしているが、事業進捗に遅れが生じている。計画目標にある交流人口の増加には、交通の安全性の確保も重要なことであるが、町外者に来町していただける目的地となる拠点の整備も並行して行っていくことが、更なる効果促進に期待できるため、他の事業とも連携を図るなかで本地域再生計画を推進していく。										